

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年12月14日
【四半期会計期間】	第7期第2四半期（自2023年8月1日 至2023年10月31日）
【会社名】	ANYCOLOR株式会社
【英訳名】	ANYCOLOR Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役CEO 田角 陸
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂九丁目7番2号 ミッドタウン・イースト11F
【電話番号】	03-4335-4850(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役CFO 釣井 慎也
【最寄りの連絡場所】	東京都港区赤坂九丁目7番2号 ミッドタウン・イースト11F
【電話番号】	03-4335-4850(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役CFO 釣井 慎也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第6期 第2四半期累計期間	第7期 第2四半期累計期間	第6期
会計期間	自2022年5月1日 至2022年10月31日	自2023年5月1日 至2023年10月31日	自2022年5月1日 至2023年4月30日
売上高 (千円)	11,973,010	15,487,989	25,341,711
経常利益 (千円)	4,310,195	6,470,953	9,448,489
四半期(当期)純利益 (千円)	2,988,013	4,498,916	6,698,710
資本金 (千円)	139,310	308,723	225,986
発行済株式総数 (株)	29,993,435	62,883,760	30,897,485
純資産額 (千円)	9,377,136	17,922,313	13,258,743
総資産額 (千円)	13,287,264	22,091,465	18,473,845
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	49.83	72.12	110.78
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	46.76	69.45	104.07
1株当たり配当額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	70.6	81.1	71.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,457,319	3,549,327	6,723,414
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	74,934	49,635	103,327
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	65,824	65,135	104
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	8,187,985	16,048,869	12,483,413

回次	第6期 第2四半期会計期間	第7期 第2四半期会計期間
会計期間	自2022年8月1日 至2022年10月31日	自2023年8月1日 至2023年10月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	25.40	27.15

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 当社株式は、2022年6月8日に東京証券取引所グロース市場に上場したため、第6期第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、新規上場日から第6期第2四半期会計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

3. 当社は、2023年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため第6期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

4. 1株当たり配当額については、配当を実施していないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態の状況

##### (資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は21,219,336千円となり、前事業年度末に比べ3,646,891千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が3,565,456千円増加したこと等によるものであります。固定資産は872,128千円となり、前事業年度末に比べ29,271千円減少いたしました。これは主に敷金が24,840千円、投資その他の資産その他が5,464千円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は、22,091,465千円となり、前事業年度末に比べ3,617,619千円増加いたしました。

##### (負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は4,069,551千円となり、前事業年度末に比べ989,230千円減少いたしました。これは主に流動負債その他が424,508千円、未払法人税等が276,709千円減少したこと等によるものであります。固定負債は99,600千円となり、前事業年度末に比べ56,720千円減少いたしました。これは長期借入金の減少によるものであります。

この結果、負債合計は、4,169,151千円となり、前事業年度末に比べ1,045,950千円減少いたしました。

##### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は17,922,313千円となり、前事業年度末に比べ4,663,570千円増加いたしました。これは主に四半期純利益4,498,916千円の計上による利益剰余金の増加に加えて、新株予約権の行使に伴い資本金及び資本剰余金がそれぞれ82,737千円増加したこと等によるものであります。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「現金」という。）は、前事業年度末と比べて3,565,456千円増加し、16,048,869千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況及び主な増減要因は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は3,549,327千円（前年同四半期は2,457,319千円の獲得）となりました。

これは主に、税引前四半期純利益6,470,953千円、法人税等の支払額2,231,091千円、棚卸資産の増加額523,495千円によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は49,635千円（前年同四半期は74,934千円の使用）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出25,866千円、無形固定資産の取得による支出23,609千円によるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は65,135千円（前年同四半期は65,824千円の使用）となりました。

これは主に、株式の発行による収入164,881千円、長期借入金の返済による支出99,518千円によるものであります。

(3) 経営成績の状況

当社は「魔法のような、新体験を。」というコーポレート・ミッションのもと、新しいエンターテインメントを提供する会社として、VTuberグループ「にじさんじ」の運営を主軸としたエンターテインメント領域での事業展開を行っております。当社のVTuberビジネスは、主にYouTubeにおけるライブ配信動画を中心とした動画配信活動によるライブストリーミング領域、当社がIPを有するVTuberのオリジナルグッズや音声を録音したデジタル商品の販売を行うコマース領域、当社所属のVTuberが出演する、音楽をはじめとしたイベントを主催するイベント領域、企業からのタイアップ広告、IPライセンス、メディア出演等の案件であるプロモーション領域の4領域で構成されています。VTuberグループ「にじさんじ」は日本国内を中心に、「NIJISANJI EN」は英語圏を中心にそれぞれ上記4領域での活動に従事しております。

国内VTuberビジネスでは、VTuberグループ「にじさんじ」に所属する日本国内で活動するVTuber数は124人（前年同四半期比12名増加）となりました。また、「にじさんじオフィシャルストア」や「にじさんじFAN CLUB」等の利用の際に必要となるIDであるANYCOLOR IDは1,101千ID（前年同四半期比54%増）となりました。海外VTuberビジネスに関しても、英語圏におけるVTuberビジネス「NIJISANJI EN」の拡大をはじめとして注力しており、VTuber数は34人（前年同四半期比8名増加）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の経営成績は、売上高15,487,989千円（前年同四半期比29.4%増）、営業利益6,482,425千円（前年同四半期比50.4%増）、経常利益6,470,953千円（前年同四半期比50.1%増）、四半期純利益4,498,916千円（前年同四半期比50.6%増）となりました。

なお、当社は動画コンテンツ関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	230,000,000
計	230,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年10月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年12月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	62,883,760	62,984,920	東京証券取引所 プライム市場	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる 株式であり、単元株式 数は100株であります。
計	62,883,760	62,984,920	-	-

(注)1. 「提出日現在発行数」欄には、2023年12月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
2023年8月1日 (注)1	31,160,585	62,321,170	-	253,908	-	2,625,823
2023年8月1日~ 2023年10月31日 (注)2	562,590	62,883,760	54,815	308,723	54,815	2,680,638

(注)1. 株式分割(1:2)によるものであります。

(注)2. 新株予約権の行使による増加であります。

## (5) 【大株主の状況】

2023年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
田角 陸	東京都港区	26,794,020	42.61
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	4,792,200	7.62
株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント	東京都千代田区六番町4-5	3,348,210	5.32
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	2,440,000	3.88
DAIWA CM SINGAPORE LTD - NOMINEE HONDA YUZURU (常任代理人 大和証券株式会社)	7 STRAITS VIEW MARINA ONE EAST TOWER, #16-05 AND #16-06 SINGAPORE 018936 (東京都千代田区丸の内1丁目9番1号)	2,240,000	3.56
LC FUND VIII, L.P. (常任代理人 大和証券株式会社)	Maples Corporate Services Limited, P.O. Box 309, Ugland House, Grand Cayman, KY1-1104, Cayman Islands (東京都千代田区丸の内1丁目9番1号)	2,000,020	3.18
釣井 慎也	東京都渋谷区	1,058,500	1.68
Skyland Ventures2号投資事業有限責任組合	東京都渋谷区桜丘町16-13桜丘フロントビル2-5階	940,000	1.49
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	783,500	1.25
伊藤忠商事株式会社	東京都港区青山2丁目5-1号	669,630	1.06
計	-	45,066,080	71.67

(注) 2023年8月4日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(特例対象株券等)の変更報告書(特例対象株券等)において、三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社及びその共同保有者である日興アセットマネジメント株式会社が2023年7月31日現在でそれぞれ以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(株)	株券等保有割合(%)
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	東京都港区芝公園一丁目1番1号	株式 1,750,400	2.81
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号	株式 2,108,700	3.38

( 6 ) 【議決権の状況】  
 【発行済株式】

2023年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 62,804,800	628,048	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 78,960	-	-
発行済株式総数	62,883,760	-	-
総株主の議決権	-	628,048	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2023年8月1日から2023年10月31日まで）及び第2四半期累計期間（2023年5月1日から2023年10月31日まで）に係る四半期財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.18%
売上高基準	0.17%
利益基準	0.18%
利益剰余金基準	0.14%

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年4月30日)	当第2四半期会計期間 (2023年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,483,413	16,048,869
売掛金	3,577,975	3,138,668
商品	1,406,062	1,929,558
その他	104,993	102,239
流動資産合計	17,572,444	21,219,336
固定資産		
有形固定資産	209,578	192,066
無形固定資産	38,603	57,147
投資その他の資産		
敷金	408,309	383,469
その他	244,909	239,445
投資その他の資産合計	653,218	622,914
固定資産合計	901,400	872,128
資産合計	18,473,845	22,091,465
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,415,864	1,170,649
1年内返済予定の長期借入金	159,325	116,527
未払法人税等	2,342,132	2,065,423
その他	1,141,459	716,950
流動負債合計	5,058,781	4,069,551
固定負債		
長期借入金	156,320	99,600
固定負債合計	156,320	99,600
負債合計	5,215,101	4,169,151
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	225,986	308,723
資本剰余金	2,597,900	2,680,638
利益剰余金	10,433,668	14,932,585
自己株式	-	228
株主資本合計	13,257,555	17,921,719
新株予約権	1,188	594
純資産合計	13,258,743	17,922,313
負債純資産合計	18,473,845	22,091,465

(2)【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2022年5月1日 至2022年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自2023年5月1日 至2023年10月31日)
売上高	11,973,010	15,487,989
売上原価	6,714,641	7,759,402
売上総利益	5,258,369	7,728,586
販売費及び一般管理費	947,694	1,246,161
営業利益	4,310,674	6,482,425
営業外収益		
受取利息	29	57
為替差益	8,688	-
その他	557	61
営業外収益合計	9,275	119
営業外費用		
支払利息	1,886	917
為替差損	-	6,673
株式公開費用	7,867	-
和解金	-	4,000
その他	0	0
営業外費用合計	9,754	11,591
経常利益	4,310,195	6,470,953
税引前四半期純利益	4,310,195	6,470,953
法人税、住民税及び事業税	1,338,499	1,966,572
法人税等調整額	16,316	5,464
法人税等合計	1,322,182	1,972,036
四半期純利益	2,988,013	4,498,916

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2022年5月1日 至2022年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自2023年5月1日 至2023年10月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	4,310,195	6,470,953
減価償却費及びその他の償却費	65,755	73,893
受取利息	29	57
支払利息	1,886	917
為替差損益(は益)	10,726	629
売上債権の増減額(は増加)	1,303,128	439,306
棚卸資産の増減額(は増加)	239,635	523,495
仕入債務の増減額(は減少)	663,936	245,214
その他の資産の増減額(は増加)	33,371	2,754
その他の負債の増減額(は減少)	583	437,148
小計	3,454,300	5,781,278
利息の受取額	29	57
利息の支払額	1,886	917
法人税等の支払額	995,123	2,231,091
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,457,319	3,549,327
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	51,883	25,866
無形固定資産の取得による支出	23,150	23,609
敷金の差入による支出	-	160
敷金の回収による収入	98	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	74,934	49,635
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	136,204	99,518
自己株式の取得による支出	-	228
株式の発行による収入	70,380	164,881
財務活動によるキャッシュ・フロー	65,824	65,135
現金及び現金同等物に係る換算差額	10,726	629
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,327,286	3,565,456
現金及び現金同等物の期首残高	5,860,698	12,483,413
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,187,985	16,048,869

## 【注記事項】

## (四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自2022年5月1日 至2022年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自2023年5月1日 至2023年10月31日)
給料及び手当	337,879千円	452,238千円
支払報酬	89,113	140,230
地代家賃	124,307	120,662
租税公課	61,349	90,934
ソフトウェア費用	51,969	83,089
減価償却費	16,836	27,011

## (四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自2022年5月1日 至2022年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自2023年5月1日 至2023年10月31日)
現金及び預金勘定	8,187,985千円	16,048,869千円
現金及び現金同等物	8,187,985	16,048,869

## (株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)

## 1. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2022年6月8日に東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。上場にあたり、2022年6月7日を払込期日とする有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)による新株式の発行50,000株により、資本金及び資本準備金がそれぞれ35,190千円増加しております。

当第2四半期累計期間(自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)

該当事項はありません。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)

当社は、動画コンテンツ関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期累計期間(自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)

当社は、動画コンテンツ関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。



( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期累計期間 ( 自2022年 5 月 1 日 至2022年10月31日 )	当第 2 四半期累計期間 ( 自2023年 5 月 1 日 至2023年10月31日 )
( 1 ) 1 株当たり四半期純利益	49円83銭	72円12銭
( 算定上の基礎 )		
四半期純利益 ( 千円 )	2,988,013	4,498,916
普通株主に帰属しない金額 ( 千円 )	-	-
普通株式に係る四半期純利益 ( 千円 )	2,988,013	4,498,916
普通株式の期中平均株式数 ( 株 )	59,965,674	62,377,084
( 2 ) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益	46円76銭	69円45銭
( 算定上の基礎 )		
四半期純利益調整額 ( 千円 )	-	-
普通株式増加数 ( 株 )	3,935,450	2,400,037
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

( 注 ) 1 . 当社株式は、2022年 6 月 8 日に東京証券取引所グロース市場に上場したため、前第 2 四半期累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益は、新規上場日から前第 2 四半期会計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

2 . 当社は、2023年 8 月 1 日付で普通株式 1 株につき 2 株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益を算定しております。

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年12月14日

ANYCOLOR株式会社  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 本間 洋一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吹上 剛 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているANYCOLOR株式会社の2023年5月1日から2024年4月30日までの第7期事業年度の第2四半期会計期間（2023年8月1日から2023年10月31日まで）及び第2四半期累計期間（2023年5月1日から2023年10月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、ANYCOLOR株式会社の2023年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。